

優秀賞

高校生部門

大阪府立大阪南視覚支援学校高等部2年

稲葉 潤也

私の夢

私は、生まれた時から全く目が見えない。光や色を感じることもすらできない。だが、それを悲しいことだとか、自分がかわいそうな人間だとは、一度たりとも思ったことがない。なぜかと言えば、目が見えないことを除けば、他は晴眼者となにも変わらないからである。楽しい時は笑うし、悲しい時には泣く。怒りが収まらず喧嘩することもあったし、人を好きになることだってある。つまり、目が見えなくても普通の生活を送ることができるのだ。

私が今一番熱中していること、それは障害者水泳だ。地域の中学校で水泳部に入部したことが、水泳を始めることになったきっかけである。水泳部に入部しようと思ったのはつきりとした理由はなく、ただなんとなく入部した。そんな心持ちだったので、入部後すぐに、晴眼者との大きな差に気づき、全く楽しめずにいた。しかし、障害者水泳を知り、次第に泳ぐ楽しさ、競争する楽しさに目覚め、私は競泳にのめり込んでいった。

障害者水泳を始めて間もなかった頃、選手が少ないので、抜いて抜かれて、というライバルが少ないことが辛いと思った。だがそんなことを言っても仕方ない。自分に与えられた環境で精一杯頑張るしかないのだ。自己ベストを更新できたときの高揚感や、大きな大会に出場できた時の感動、そしてメダルを獲得できたときの言い表せない嬉しさは計り知れないものがある。

私には、パラリンピック出場という夢がある。そのためには、たくさん考えながら練習して、必死に頑張らないといけない。だが、それは障害を持っているから頑張っているわけではなく、ただ自分が頑張りたいから頑張っているのだ。だから、工夫することがあっても、努力はしていない。少なくとも努力しているなんて思っていない。私は、この考え方を生き抜く力にしていきたいと思う。